



シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A5 現代経済と 企業活動	20140586005302	●現代経済と 企業活動 I (経済活動 と社会)	和	E	藤田 渉	1年,2年,3年,4年	後期	火 1	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A5 現代経済と 企業活動	20140586005702	●現代経済と 企業活動 I (企業の仕 組みと行動)	和	E	星野 光 秀	1年,2年,3年,4年	後期	火 2	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育 全学 モジュール I 科目-A5 現代経済と 企業活動	20140586006102	●現代経済と 企業活動 I (経済政策 と公共部門)	和	E	笹川 篤 史	1年,2年,3年,4年	後期	月 2	～



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A5 現代経済と企業活動**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586005302	科目番号	05860053
授業科目名	●現代経済と企業活動Ⅰ(経済活動と社会)		
編集担当教員	藤田 渉		
授業担当教員名(科目責任者)	藤田 渉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤田 渉		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-23		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	wfujita@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所204号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜日10:20~10:30(講義終了後、文教キャンパスの何処かで)。		
授業の概要及び位置づけ	現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家計・企業の行動原理および市場のしくみを説明できる：科目「経済活動と社会」 ・教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす(全学モジュール共通目標) ・以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける(全学モジュール共通目標) 		
授業方法(学習指導法)	提示する資料をもとに授業を行うとともに、学生の議論への参加を「強く」要求する。資料の提示、課題の提出などはLACSを多用する。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション 小学校～高校で学んだ「経済活動と社会」にかかわる事項を思い出す 「学習指導要領」をひっぱりだす・・・あのとき何を学ぶ予定だったのか	
	2	ひとびとの経済活動と相互の関わり・・・生の記憶と認識の再構成	
	3	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか(古典の中の職能と産業1)	
	4	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか(古典の中の職能と産業2)	
	5	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか(外国の例でも3)	
	6	「生産」を深く考える	
	7	「消費」を深く考える	

	8 「取引」を深く考える
	9 「産業」について知るところを・・・
	10 ビジネス・エコノミクスへの接近（1）
	11 ビジネス・エコノミクスへの接近（2）
	12 抽象モデルとしての産業
	13 モデルを解く（1）
	14 モデルを解く（2）
	15 自分の描くキャリアと経済活動を論じる
	16 授業の総括（試験・課題レポート出題などを含む）
キーワード	経済、産業、企業、家計
教科書・教材・参考書	適宜、資料を配付または提示する。また、学内外の図書館、ネットなどで簡単に参照できる図書・資料についても適宜指示する。これらはLACSを使用することが多いので、受講生は常時確認すること。
成績評価の方法・基準等	試験またはレポート等（60％）、講義中の課題、積極的な授業参加（40％）
受講要件（履修条件）	特になし
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A5 現代経済と企業活動**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586005702	科目番号	05860057
授業科目名	●現代経済と企業活動Ⅰ(企業の仕組みと行動)		
編集担当教員	星野 光秀		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 光秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 光秀		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-23		
対象学生(クラス等)	医学部, 歯学部, 工学部, 環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	mithoshi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所311		
担当教員TEL	820-6404		
担当教員オフィスアワー	講義終了後か、メールでアポイントをとってください。		
授業の概要及び位置づけ	現代社会の生産活動の大部分は、企業を通じて行われています。この授業は、企業の基礎理論等を概要とし、現実問題への会計学、ミクロ経済学、ファイナンス等の応用能力を養成できる特徴があります。		
授業到達目標	企業活動という身近な現象を通じて、会計学、ミクロ経済学、ファイナンス等の応用能力を養成しかつ現実の企業活動への理解を深めることを到達目標とします。		
授業方法(学習指導法)	講義形式で、教科書のポイントを中心に、担当教員の実務経験を踏まえ、具体例を用いて丁寧にわかりやすく解説することを試みます。ミクロ経済学等の予備知識はゼロの前提で解説します。習うより慣れること(トレーニング)及び復習を重視し、理解を確認しながら進みます。教科書はできるだけ、購入・持参するようにしてください。また、学生のみなさんの主体的参加を促進します。より具体的には、発言がない場合は指名します。		
授業内容	<p>授業内容(概要) 企業の基礎理論等 スケジュールは変更の可能性のあることに留意してください。</p> <p>第1回(9月30日) ガイダンス、イントロダクション、講義第1章 序論(1) 第2回(10月7日) 講義第1章 序論(2) 第3回(10月14日) 講義第2章 生産・費用・利潤(1) 第4回(10月21日) 講義第2章 生産・費用・利潤(2) 第5回(10月28日) 講義第2章 生産・費用・利潤(3) 第6回(11月4日) 復習 第7回(11月11日) まとめ(第1回小テストを含む) 第8回(11月18日) 講義第3章 財務・成長・投資(1) 第9回(11月25日) 講義第3章 財務・成長・投資(2) 第10回(12月2日) 講義第3章 財務・成長・投資(3) 第11回(12月9日) 講義第4章 新しい企業理論(1) 第12回(12月16日) 講義第4章 新しい企業理論(2) 第13回(1月6日) 講義第4章 新しい企業理論(3) 第14回(1月13日) 復習</p>		

	第15回(1月20日)まとめ(第2回小テストを含む)
キーワード	
教科書・教材・参考書	小田切宏之『企業経済学』東洋経済新報社、2010年を教科書とします。
成績評価の方法・基準等	2回の小テスト(持ち込み不可を予定(80%))、授業への貢献度(20%)で評価します。期末試験は行いません。
受講要件(履修条件)	
備考(URL)	
学生へのメッセージ	日本経済新聞などの経済・経営に関するニュースに日頃から関心を持つようにしてください。



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 全学モジュールⅠ科目-A5 現代経済と企業活動**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月 2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20140586006102	科目番号	05860061
授業科目名	●現代経済と企業活動Ⅰ(経済政策と公共部門)		
編集担当教員	笹川 篤史		
授業担当教員名(科目責任者)	笹川 篤史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	笹川 篤史		
科目分類	全学モジュールⅠ科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-11		
対象学生(クラス等)	教育・水産・薬学・多文化		
担当教員Eメールアドレス	sasagawa@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所318号室		
担当教員TEL	095-820-6331		
担当教員オフィスアワー	月曜日午後。(事前にEメールで予約を取ってください。)		
授業の概要及び位置づけ	経済政策と公共部門の役割と課題について、財政政策、金融政策、規制というそれぞれの観点から、理解し、考察する。 モジュールⅠ科目として、今後の専門分野の学習の参考となるよう、興味・関心のある現代社会の課題の探求を通じ、経済や企業活動に影響を与える公共部門の役割を学ぶ。		
授業到達目標	経済政策と公共部門の役割と課題について理解し、その課題の概要について説明できるようになる。		
授業方法(学習指導法)	グループで3分野(①租税と財政の役割と課題、②金融・金利・物価・為替に関する政策、③規制の役割と課題)について、調べ、発表を行う。 発表の際は、相互に質問を行い、LACSによりコメントを書きこみを行う。 授業中に、各自の用意するノートパソコンと長大Wifiを利用し、作成した資料はLACSの掲示版を用いて情報交換する。 最後に、自分が調査・発表に際して貢献したこと、学んだことなどをレポートにまとめ、LACSにより提出する。		
	提示されたテーマ又は自分たちで考えたテーマの中から一つ選び、発表を行う。テーマの候補は以下のとおり。 財政に関しては、国・長崎県・長崎市の教育関連予算、水産関連予算、医療費関連予算、ODA関連予算、租税教育など。 金融・金利・物価・為替に関する政策に関しては、金融教育、教育ローンの金利、薬価改定、燃料費の高騰を入口として、背景、制度の仕組み、価格決定の仕組みなど。 規制の役割と課題に関しては、労働規制、幼保一元化、待機児童、教育特区、公設民営学校、水産特区、医薬品ネット販売、条約と国内規制など。		
	回	内容	
	1	イントロダクション、授業の進め方の説明など	
	2	租税と財政の役割と課題の発表資料作成	

授業内容	3	租税と財政の役割と課題の発表資料作成	
	4	租税と財政の役割と課題の発表準備	
	5	第1回（租税と財政の役割と課題）発表	
	6	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表資料作成	
	7	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表資料作成	
	8	金融・金利・物価・為替に関する政策の発表準備	
	9	第2回（金融・金利・物価・為替に関する政策）発表	
	10	規制の役割と課題の発表資料作成	
	11	規制の役割と課題の発表資料作成	
	12	規制の役割と課題の発表資料作成	
	13	規制の役割と課題の発表資料作成の発表準備	
	14	第3回（規制の役割と課題）発表	
	15	授業の総括	
	16		
	キーワード	租税、財政金融政策、規制、政府、中央銀行、地方自治体	
	教科書・教材・参考書	教科書の指定なし。 参考書として、『経済政策入門 第2版』（成文堂）、『財政学をつかむ』、『日本の財政』（中央公論新社）、『はじめて学ぶ国と地方の財政学』、『税金常識のウソ』、『社会保障を立て直す』、『財政規律と予算制度改革』、『成功する政府 失敗する政府』、『日本銀行』、『規制改革で何か変わるのか』、『ブラック語録大全』。	
成績評価の方法・基準等	グループ発表の内容・授業への貢献・積極的参加（50%）、レポート（50%）。（定期試験は実施しない。）		
受講要件（履修条件）	授業中にノートパソコンを利用するので、各自用意すること。		
備考（URL）			
学生へのメッセージ	普段から新聞などを読み、社会に関心を持ち、何が課題となっているか考えることが、この授業を有意義なものにします。		

